

活動状況報告（4月）

スポーツコース 5期生 太田 ゆき菜

アメリカもたくさんの花が咲き、心地良い天気の日が多くなってきました。こちらは4月5日が卒業シーズンなので、区切りのイベントが多い月でした。今月は①車いすバスケットボールの全米選手権にクラシファイアとして参加、②ESL クラスの卒業セレモニーと DRES のアワード、③車いすレーサーでの初ハーフマラソン出場、の3つについてレポートしたいと思います。

① 車いすバスケットボールの全米選手権にクラシファイアとして参加

3月末から4月頭にかけて、車いすバスケットボールの全米選手権にクラシファイアとして参加しました。アメリカ全土から16人のクラシファイアが集まり、1年目は私一人でしたが、自分のできることを丁寧にやるように心掛けて、色んな人との新たな出会いを楽しみながら大会期間を過ごしました。今回の会場はバスケットコート12面をとれる大きな施設で、大会は3つのディビジョンにわけられており、各ディビジョンに16チーム、トータルで48チームが参加し、全米を決めるシーズンを通して最も大きな大会でした。アメリカ代表選手の多くがディビジョン1でプレーしており、目の前で彼らのプレーを観ることもできました。クラシファイアの仕事は大会が始まる前から大会初日が最も忙しく、大会前日に書類の確認や作成作業をして、試合が始まるとクラス分けの完了していない選手のプレーをひたすら見ていきます。選手のプレー中の身体の使い方を観察し、クラスを決めていくのですが、その根拠となる確認された動作を細かく端的に記載し、必要に応じて選手の計測などをしていきます。この過程で大切なのは、クラシファイア同士でしっかりディスカッションすることです。正確に動作分析、評価できる能力はもちろん大切ですが、今回参加して、他のクラシファイアや選手、コーチとコミュニケーションをとれる能力が最も求められていると感じました。一緒に働くクラシファイアの方々と自信を持って英語で自分の意見を話し、相手の話もよく聞いて、お互いでより良い着地点に向かっていけるディスカッション能力がないとうまく機能しません。そしてクラシファイアは時に選手へ厳しい評価結果を伝えなければいけないタフな仕事ではありますが、だからこそ選手やコーチとの信頼関係を大切に、根拠を持ってそれを伝えられるかがポイントとなってきます。特にベテランのクラシファイアの方々は、とても上手にコーチや選手とコミュニケーションをとり、厳しい結果もまろやかに伝えられる能力を持っているように感じましたし、それらを伝える時のオープンな環境作りも大切だと感じました。

また大会の夜には2023年度のアワードセレモニーが開かれました。これは全米車いすバスケットボール協会に貢献してきたレジェンドたちが選ばれ、選手から選ばれることが多いのですが、今回歴代で初めてクラシファイアの方が選出されました。アメリカのトップクラシファイアとして長年車いすバスケットボール界に尽力してきた方で、私の資格取得に協力してくれたり、私を今回の大会に呼んでくれたリスペクトする方で、クラシファイアみんなでたくさんお祝いをしました。このような機会に参加できたことをとても嬉しく思います。また、今回新たに多くの方々と繋がれたことは大きな収穫であり、クラシファイアはコメディカルの方が多いので、試合の合間にいろいろな話を聞くこともできました。特に、医療サイドとスポーツサイドを繋ぐ役割として、アメリカにはレクリエーションセラピストという職業があり、この存在が大きな役割を果たしているように感じました。

②ESL クラスの卒業セレモニーと DRES のアワード

4 月末の全く同じ日、同じ時間帯に 2 つのセレモニーがありました。どちらにも出席したかったので、半分ずつ参加しましたが、一つが ESL の卒業セレモニーで、学生代表スピーチに選ばれ、ここで学んだパラスポーツの経験をシェアして欲しいとのお話をいただいていたので、英語クラスの学生の皆さんにもこの大学の素晴らしいパラスポーツの活動や障がいを持った学生に対する環境など私がこの数カ月間で経験してきたことの話をしました。大勢の人の中での英語でのスピーチ(それも当日の朝に用意したもの…)でしたが、自分の経験を多くの人にシェアできること、そしてパラスポーツのことを多くの人に知ってもらえることは嬉しいことなので、このような機会をいただけたことは光栄ですし、感謝したいと思います。

そのあとスーツで激チャリをして私が毎日研修している DRES(障がいを持った学生をサポートするプログラム)のアワードに参加しました。こちらは 150 人程の規模で、今年度の DRES のサービスに関わる学生達のスカーラーシップの表彰が中心でした。スカーラーシップにもたくさんの種類があり、パラスポーツ、学業、研究、二分脊椎・脳性麻痺などの先天性障がいの学生向け…などなど種類も豊富で、60 人以上の学生がスカーラーシップを得ていました。このスカーラーシップによって多くの学生のチャンスが広がっていることはとても良いことだと思いますし、スカーラーシップを受けて学んだ学生が社会に出た後に、自分の名前でスカーラーシップを立ち上げて次の世代に貢献するなど、ポジティブな循環が生まれていることもこのプログラムが持続的に発展してきている一つの要因だと感じました。

また、アスレティック部門は各チームのコーチのシーズンを振り返るスピーチや、パラアスリート学生の各部門の表彰などがありました。そしてこの表彰時に、「正式な学生ではないので公での表彰はしたくてもできなかったけれどこの一年感謝しているよ」と有り難いお言葉をプログラムのトップコーディネーターの方からいただき、こっそり賞品をいただきました。このように人を大切にし、いつも細部にまで心配りや温かさがあるのも DRES のプログラムの素敵どころだと感じます。この数ヶ月間このプログラムの中で研修できたことは私にとっての財産になりましたし、それが可能なのも、みらチャレにサポートいただけているお陰です。本当に感謝しています。

③車いすレーサーでの初ハーフマラソン出場

車いすレーサーでのハーフマラソンに初出場しました。私は大会 5 日前まで外を走った経験はありませんでしたが、室内のローラーで 4 ヶ月間毎晩コソ練をしたお陰で出場を認めてもらうことができました。途中でグローブが壊れ、残り 1km くらいでパンクしてしまいそこからレーサーを持って歩いて、最後は足で走ってゴールしたのでレーサーでゴールできなかったことは悔しいですが、とてもエキサイティングな時間でした。今回一緒に走った選手は毎日一緒に練習しているチームメイトですが、そのほとんどがパラリンピアンなので一瞬で見えなくなりましたが 1 人のチームメイトには勝つことができました。実際に自分が練習し、大会に出場することで、日々どんな練習が必要なのか、どのようにプッシュするといったのか、レーサーやグローブはどのように調整すると使いやすいのか…など見ている以上に多くのことを学びましたし、今回の密かな個人目標は、レーサー 1 台と室内ローラー 1 台あれば、ハーフマラソンを走れるようになることを証明することでもありました。わずかなスペースでも十分練習できること身をもって体験することが出来ましたし、もちろん良い施設を使えるに越したことはありませんが、シンプルに必要なものを使って、実はまだまだパラスポーツの練習の仕方や練習場所は

いろいろな工夫ができるのではないかなとも思いました。

車いすバスケットボールチームは4月でシーズンが終了し、しばらくの間OFFになりますが、車いす陸上チームは国際レベルのマラソン大会に多くの選手が出場したり、5月には全米選手権があるので今はそれに向けて毎朝練習が続いています。アメリカでの生活も残りわずかとなってきましたが、1日1日を大切に有意義な時間を過ごしたいと思います。

①車いすバスケットボールの全米選手権にクラシファイアとして参加



②ESL クラスの卒業セレモニーと DRES のアワード



② 車いすレーサーでの初ハーフマラソン出場



